

〈庭のカタクリ〉

今日は20度を超える暖かさで外にいると汗ばむほどの陽気。午前中は全国のネイチャーゲームの仲間とオンラインでの研修会だったが、北海道から沖縄までの参加者がいると、冬・春・夏の季節が疑似体験でき、改めて日本列島の豊かな自然を感じることができた。四季が感じられるのは嬉しいが、果たしてこの先ずっと四季が感じられる日本であり続けるのか心配ではある・・・。

研修が終わって庭に出てみると、カタクリの花が咲いているのに気づいた。葉が出て、つぼみが膨らみ始めていたが、ついに今日開花となった。毎年春の訪れを知らせてくれるスプリングエフェメラル、まさに春の妖精だ。カタクリはアリが運んだタネから増えるらしいが花が咲くまで7~8年にかかるとのこと。気の長い話だ。今年咲くのはこの3株だけ。かつてはあちこちの里山に群生していて“かたくり粉”として利用していたという。2年前山形の道の駅でカタクリの花が売られていた。どうするのかと聞いたら、酢の物にして食べるとのこと。早速、一束（20本くらいだろうか）買って酢の物で食べてみた。クセがなくとっても美味しかったのを覚えている。カタクリを身近な食材として利用していた時代きっとハコベのような存在だったのかもしれない。

